

がくしゅうかだい（2ねんせい）



【こくご】けいかくをたててすこしずつとりくんでいきましょう。

＜べんきょうすること＞

◆「かんさつ^{めいじん}名人になろう」（きょうかしよ 52～57 ページ）にとりくみます。いきものやしよくぶつをかんさつして、さいごにきろくする文しょうを書きべんきょうです。

①いきものやしよくぶつから、かんさつしてみたいものをきめます。
※いえの中や、いえのちかくにかんさつするものがないときは、本（ずかんなど）やしやしんをつかってもいいです。

②きょうかしよ 53 ページを読み、かんさつするときの6つのポイントをたしかめます。

（れい1）

（れい2）

③6つのポイントをかんがえながら、かんさつしてみましよう。かんさつしたことをメモしておきましよう。

（れい1）

※ずかんやしやしんをつかうときは、大きさや形、色など、見てわかることをメモしましよう。

※（れい2）のように、ポイントを表にして書いてもいいです。

きんぎよ 六月〇日 晴れ ・あかいろとくろいろがある。 ・口をぱくぱくさせている。 ・ぼくの手のグーぐらいの大きさだ。 ・ぼくに話しかけているみたいだ。	ようす	大きさ	色	きんぎよ
	口をぱくぱくさせている	ぼくの手のグーぐらい	あかとくろ	六月〇日 晴れ

※できたら、「～みたいだ。」「～のようだ。」ということばをつかってみましよう。（手のひらみたいだ。ほしのかたちのようだ。など）

◆あたらしいかん字「店(59 ページ)」～「海(59 ページ)」まで、とりくみます。

＜保護者による関わり方のポイント＞※可能な範囲でお願いします。

- ・「大きさはどのくらいかな?」「色、形はどんな様子かな?」などと観察するものの様子や動きを言葉にできるよう、声かけをしてあげてください。
- ・次回の学習では書きためたメモから文章を作成していきます。ご家庭に付箋があるようでしたら、観察したことを一つずつ付箋にメモすると、文章を構成する際に順番を入れ替えたりすることが可能になります。（例）

あかとくろ

口をぱくぱく

手のグーぐらい

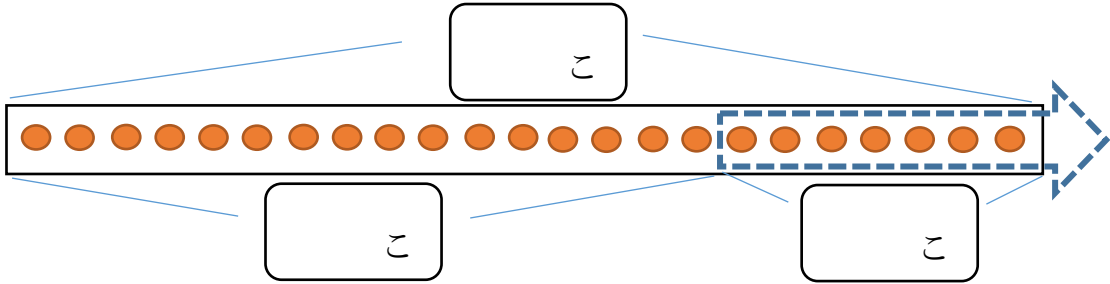
【さんすう】

「※」は勉強するときの先生からのアドバイスです。

＜べんきょうすること＞

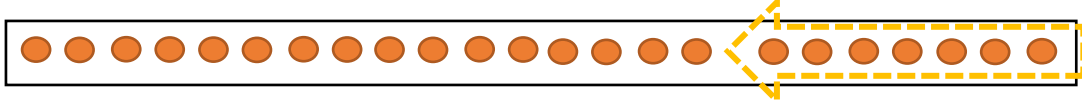
◆ひき算（計算のたしかめ）（きょうかしよ 47 ページ）

かごに ボールが 23こあります。
7ことり出すと、のこりは 何こに なるでしょうか。



式 答え _____

とり出した 7このボールを かごにもどすと、
何こに なるでしょうか。

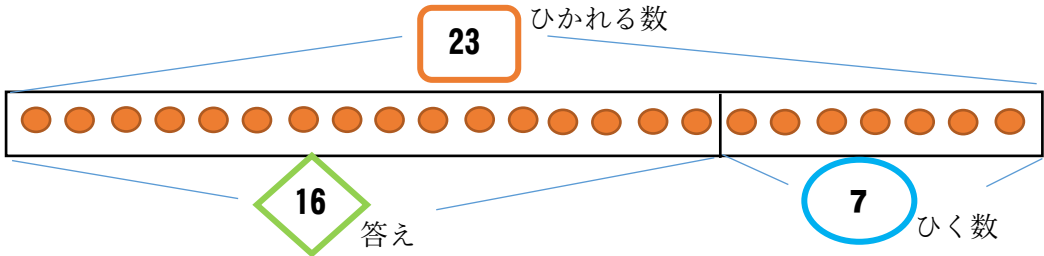


式 + = 答え _____

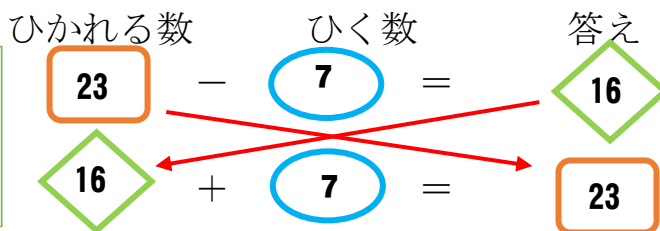
あれ？ もとの23個と同じになったよ？

？ 2つの式には どんな かんけい があるのかな？

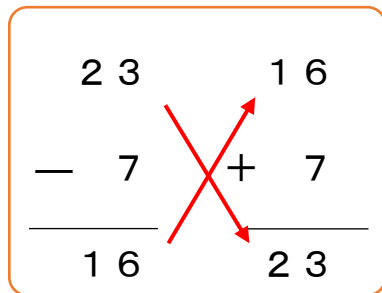
たし算とひき算の かんけいについて 下の図や式を見て
気づいたことを 声に出して せつめいしよう。



※ひき算の答えにひく^{かず}数をたすと、ひかれる数になります。



23 - 7 の答えは、 + の
計算で たしかめを することができます。



<れんしゅうもんだい①> 43 - 17 の計算をしましょう。
また、答えの たしかめを しましょう。

(1) 43 - 17 =

(2) + =

(1)		4	3	(2)			
	-	1	7		+		

<れんしゅうもんだい②> □にあてはまる数は いくつでしょうか。

(1)		<input type="text"/>	<input type="text"/>	(2)	5	<input type="text"/>	(3)	6	1	
	-	1	6		-	3	9	-	<input type="text"/>	<input type="text"/>
		2	2			1	7		2	7

<この ^{べんきょう}勉強で、わかったことや、きづいたこと、
おもしろかったところを、おうちのひとに ^{はな}お話ししてみよう。>

<保護者による関わり方のポイント> ※可能な範囲でお願いします。

◆ひき算（教科書 P47）

- ひき算の式の「ひかれる数」が、計算の確かめのたし算の式では「答え」の位置に入れ替わります。
- 子どもにとって、「ひかれる数」「ひく数」など用語の理解は容易ではありませんので、2年生では、ブロックの動きや図の矢印などを用いて、理解を助けるとよいです。今後、少しずつ算数の用語に慣れさせていくことが望ましいです。